



今年は立春を過ぎても寒かったのですが15日から続いて春のような暖かい日になりました。ナンキンハゼの木の枝先に殻を落とした実が白く、遠くからもよく見えました。川沿いのサクラバハンノキは雄花を開き、そろそろ雌花が熟す頃です。サザンカの花は咲き始めが遅かったので今年はいつまでも咲いています。いつもの春になればな、と思います。



ツグミ

12月上旬に初めて姿を現した時と同じサクラの枝に止まっています。あと2ヶ月くらいでシベリア方面に帰っていきます



ゴイサギ

運動公園では初見です。長くなった白い飾り羽根(冠羽)が見え、脚もピンクがかっていて繁殖が近いことを表しています。



ヒラズオオアリ

5シほどで頭部前面が切ったように平たい大型の働きアリ(兵アリ)です。枝に開いた虫食いの穴などで生活する樹上営巣性のアリです。この頭で巣穴の入り口を塞ぎ外敵の侵入を防ぐ習性があります。



ヨコヅナサシガメ幼虫

関東以南で見つかる南方系のサシガメです。夏に孵化し5齢幼虫で集団越冬します。口吻を伸ばして昆虫に刺して体液を吸う肉食性のカメムシです。



ハイイロチビフサヤスデ

3シくらいで、とても多足類のヤスデとは思えない外観です。歩脚は13対あり、尾部にブラシ状の毛の束があります。夏に産まれ5から6齢で越冬します。樹皮下に生息し、集団で見つかることが多いです。



ニセザクロゴケ

枯れ枝に着生した地衣類で、初めて見ました。地衣体は灰白色で、ウメノキゴケのようにひらひらせず子器(しき)が地衣体から裸出し鮮やかな橙赤色です。



ネムノキの冬芽

下の画像は葉を落とした葉痕です。この日は葉痕が割れています。この中に冬芽が隠れているのです。



カイツブリ

人が近づくのを察知して、大急ぎで水面を駆けるように逃げ出しました。複数いるのでここで営巣する姿が見られるのを楽しみにしたいと思います。



ウスタビガの繭 繭の横に

開いた穴。コンボウアメバチの脱出孔かとも思ったのですが、ヤママユと違いこちらは上部から抜けることができるはずですが、ウスタビガの場合は、鳥に突かれた穴と考えるのが妥当だと思います。



(虫こぶ)クズクキツトフシ

5 疋ほどのオジロアシナガゾウムシの幼虫がこの中で成長し羽化した後に残ったものです。



年が明けてからの冬の蛾は少ないよ

うです。

右は初記録のシモフリエダシヤクで、左は*ホソウスバフユシヤクです。シモフリも冬尺蛾の一種で、共に春先に現れる多食性の蛾です。コナラの仲間やエノキ、ケヤキなどを食べます。



ハラビロカマキリ卵のう

最近では外来種のムネアカハラビロカマキリの卵のうばかり見るので久しぶりでした。ムネアカは在来種をかなり圧迫しているのは確かです。

植物 花(セイヨウタンポポ、ホトケノザ、サザンカ、サクラバハノキ雌花)、実(ナンキンハゼ、ヌルデ、シャリンバイ、ヒサカキ、ヨゴ、アオツツラフジ、ノイバラ、クズ)、冬芽(コナラ、アベマキ、サトザクラ、ヒラドツツジ、ネムノキ、ヒサカキ、ヤマコウバシ、ヤマザクラ、サクラバハノキ)、シダ類(マツバラノ孢子葉)、苔(タチヒダゴケ、ヒロハツヤゴケ等、

昆虫 ウラギンシジミ空繭、シモフリトゲエダシヤク、*ヒロバフユエダシヤク、*ホソウスバフユシヤク、チャミノガ、空繭(ウスタビガ3、ヤママユ5、マイマイガ、ヒロヘリアオイラガ、ナンキンキノカワガ)、ヤママユガ類卵、ツチイナゴ、オオカマキリとハラビロカマキリの卵のう、ヤマトゴキブリ幼虫、ヨコヅナサシガメ、ケブカカスミカメ、ムネアカアワフキ幼虫の巣、アシナガバチ巣、ウメマツオオアリ、ヒラズオオアリ、蟻の道(コナラ樹皮)、**クモ** ゴミグモ幼体、ジョロウグモ卵のう、

鳥 ミサゴ、ツグミ、エナガ、メジロ、シジュウカラ、コゲラ声、ジョウビタキ、ホオジロ、カケス声、スズメ、カラス2種、(アオサギ、ダイサギ、ゴイサギ、ミコアイサ雌、カイツブリ、オオバン、コガモ、マガモ、ホシハジロ、カンムリカイツブリ、鳥の巣、**その他** 多足類(ハイイロフサヤスデ)、虫こぶ[フェノラータモモフトハムシとその空繭、クズクキツトフシ(オジロアシナガゾウムシ)ヨモギクキワタフシ)、地衣類[ウメノキゴケ類、モジゴケ、ニセザクロゴケ、ロウソクゴケ、ヒメジョウゴゴケ(歩道上)]、茸(ツチグリ、ヒイロタケ)、こうやく病菌(カイガラムシと共生する) (*印は開始前に記録)